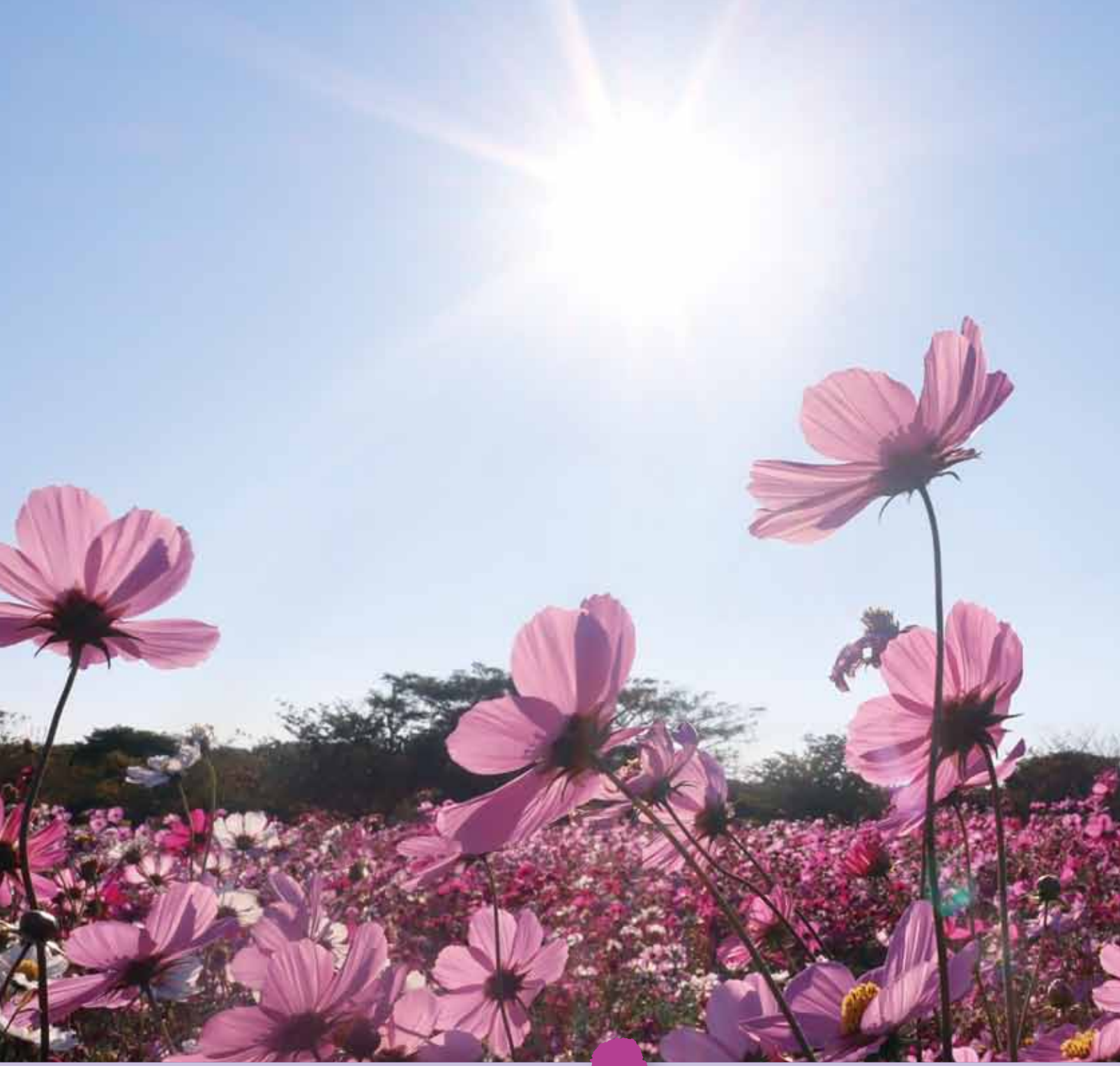

医療トピック
■熊本での研修と当院産婦人科について・・P2-3
職場紹介
■通所リハ・・・・・・・・・・・・・・・・P4-5
巻末特集(1)
■健康の社会的決定要因（ＳＤＨ）
教材作成ワークショップ　・・・P6
巻末特集(2)
■李先生の研修　・・・・・・・・・・・・P7
■千代診療所診療体制のご案内・・・・・P8

公益社団法人福岡医療団
千鳥橋病院
千鳥橋病院　検索

ちどり通信

千鳥橋病院・千代診療所広報誌

2019年 秋号

Vol.109

題字・書画人　国崎幸子

撮影者：豊田 稚香
タイトル：「秋桜」　撮影場所：海の中道海浜公園
コメント：四季折々の花の絨毯が、季節ごとに楽しませてくれる場所です！
わたしはコスモスが一番好きです♪

「ちどり通信」へのご意見・ご感想をお寄せください E-mail ： soumu@fid.jp

MEDICAL TOPIC
医療トピック

熊本での研修と当院産婦人科について

千鳥橋病院　産婦人科　大塚 峻央 医師

はじめに

8年目の医師で産婦人科の大塚峻央です。熊本での4年間の外部研修を終えて、今年4月から千鳥橋病院に戻ってきたので報告します。

熊本での研修について

初期研修2年間と3年目の総合内科研修を千鳥橋病院で行い、その後4年間熊本の福田病院で産婦人科研修を行いました。特に周産期に興味があったため、分娩数日本一の福田病院で研修することにしました。

福田病院は出生総数が年間約3,900名ととても多く、NICUやMFICUを併設している病院です。帝王切開も年に1,000件以上行っています。実際に4年間の研修で約1,500件の経腟分娩と、約820件（うち執刀320件）の帝王切開に携わりました。千鳥橋病院の分娩数が年間約270件なので、4年間でかなり多くの分娩に携わることができました。

帝王切開に関しては「自分で麻酔をかけて児を安全に出せるところまでできて一人前」という目標のもと研修を行い、実際に自分で麻酔をかけて手術も行いました。分娩だけでなく年間400件以上の婦人科手術も行っており、多くの手術症例も経験させてもらいました。また、NICUでも2ヵ月間研修し、新生児の蘇生はもちろん、採血や点滴、挿管などの手技、また呼吸・循環などの全身管理についても学ぶことができました。

この4年間で分娩に関してはかなり充実した研修ができ、産科医として最低限の知識と技術を身につけることができたと思っています。

千鳥橋病院について

当院に戻ってからは、熊本と環境も違うためまだ慣れない部分もありますが、日々頑張って仕事に励んでいます。

お産は何事もなく無事に赤ちゃんが産まれてきて当たり前、と思っている方も多いと思いますし、実際にこれまで携わった分娩のほとんどは問題ないものでした。しかし、中にはハイリスクの分娩や、出生後に赤ちゃんの状態が悪くなったり、問題が見つかったりすることも少なからずあります。

千代診療所には産婦人科の外来窓口 があります

熊本で研修する中で、いつでも帝王切開ができる環境や、小児科・新生児科医が常駐してくれている環境は、お産をする上で妊婦さんだけでなく、私達産婦人科医にとっても安心できる環境であると感じました。小児科医や麻酔科医がいる、他科の医師がいる、いつでも検査や必要な治療・手術ができる。当院のそうした部分は、安心してお産ができる環境ではないかと思います。

また、当院では出産だけでなく、子宮筋腫や卵巣腫瘍などの良性疾患を中心とした婦人科手術も行っています。患者さんによっては持病を抱えている方もいらっしゃいますが、総合病院ですので、そういった方でも他科との連携でしっかりと術前・術後管理を行えるのも当院の強みではないかと考えています。

現在妊娠中でまだ分娩施設を決めていない方、これから妊娠出産を考えている方、当院で分娩してみませんか?また、生理やおりものに関することなど婦人科症状で困っている方も、受診していただければ力になりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

エコーで
お腹の赤ちゃんの様子を
一緒に確認しています

赤ちゃんとの
ご対面

病室は病棟の中では
最上階となる6階にあります

病棟には
開放的なフリースペースも
あります

お産ブログの紹介

千鳥橋病院　産婦人科

お産ブログ はじめました

千鳥橋病院産婦人科公式ブログは、
産婦人科スタッフが、
お産や赤ちゃんの誕生、赤ちゃんの様子など
日々の出来事を綴ることから始めました。
今では産婦人科病棟だけでなく、
出産をサポートする様々な部署を紹介して、
快適なマタニティライフを過ごしていただけるよう
頑張っています。ぜひ、ご覧ください。

お産ブログ

(http://chidoribashi6f.blog.fc2.com/)

産婦人科HP

通所リハ

リハ技術部在宅リハ科科長　有吉 紘一

明るく元気なスタッフが通所リハを盛り上げます!!

在宅生活の支援とは

日本では、これからも高齢化が進み、２０２５年には４人に１人が65歳以上の高齢者になると言われています。いつまでも若々しく元気に過ごされることが一番ですが、老化のみでなく思いがけない怪我や病気で、入浴や外出などの日常生活に不自由が生じることがあります。

通所リハでは、日常生活に介護を必要とする要介護認定の方に対して、食事や入浴、リハビリやレクリエーションを提供しています。送迎は自宅まで介護スタッフが付き添い、利用者一人ひとりに合ったリハビリが行えるよう、担当チームで話し合い計画を立てて取り組んでいます。

通所リハの役割

千鳥橋病院には、1時間の利用でセラピストによるリハビリのみを行う短時間通所リハと、リハビリに加え食事やお風呂などのサービスも提供している長時間の通所リハがあります。介護保険をご利用の方々は訪問看護やヘルパーなど様々なサービスを利用して生活しています。

通所リハは他の事業所とも連携をはかり、日常生活での課題の改善や運動不足の解消のみでなく、社交の場の中でその人の人生経験を活かして役割を発揮してもらえるよう日々工夫しています。「諦めてしまったけど、本当にしたいことは何でしょうか？」などと問いかけつつ、１人では不安でもみんなで一緒に取り組みます。利用者を中心に様々な職種が連携をはかるためには、本人の希望＝目標が大切なのです。

目標設定とチームアプローチ

通所リハでは全ての利用者に担当チームがあり、必要に応じて医師を交え利用者の目標設定のための会議を行っています。

目標設定は利用者やご家族の要望から始まり、担当チームで優先順位と期間を設けて計画します。目標が明確であればあるほど利用者自身どうすれば達成できるのかと継続して頑張れますし、連携する他の事業者も今何をして、何を伝達すべきか分かりやすくなります。目標や取り組みが漫然としたものにならないよう、全てのスタッフが協力して一人ひとりに合った関わりを見つけていきます。

人生には新しい刺激が必要で、年齢を重ねても人の脳は刺激に応じて常に変化すると言われています。そういった面も含め、スタッフがやりがいを持って働ける千鳥橋通所リハが利用者の生きがいになると信じています。利用者やご家族が住み慣れた地域で役割を持って、生きがいを感じられること、それが通所リハにできる在宅生活の支援です。

利用者のみなさまの「やりたいこと」をみんなで支えます…

通所リハは利用者の在宅生活の支援を行っています。

在宅生活の支援、送迎、レクリエーション、そのほか様々な活動を行っています。

運動会での応援合戦も大変盛り上がりました★

巻末特集(1)

健康の社会的決定要因（SDH）※教材作成ワークショップ

2019年7月6日（土）、千鳥橋病院で「健康の社会的決定要因（SDH）教材作成ワークショップ」が開催されました。

今回のワークショップは、順天堂大学医学部・医学教育研究室の武田裕子教授が中心となり、医学生・研修医がSDHを学ぶ学習教材づくりのために実施されました。

患者さんの健康は遺伝的な問題だけではなく、社会的な条件に大きく左右されることが分かっています。しかし、学生・研修医を対象としたSDHの視点を取り入れた具体的な学習教材は、現時点では国内では作成されていません。

ワークショップには大阪・耳原総合病院の大矢亮医師（救急総合診療科部長）をはじめ、全国の民医連などからSDH教育・研究・普及活動をする医療者の集まり（チームSAIL）のメンバー、当院の医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど合わせて30名が参加しました。

当院の桃寄未紗医師（1年目研修医）と菊池伊織医師（2年目研修医）が、入院や救急外来で経験した症例をSDHの視点で発表しました。それをもとに、指導医や看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフなど、多職種でのカンファレンスを行いました。

たとえば、患者さんの人間関係、仕事の状況、趣味や生きがい、住まい、病気の診断や治療だけでなく、患者さんの生活背景を把握し、必要であればそこにまで介入していく、という研修に力を入れています。今回はアクションシートを利用して議論をすることで、指導医も含め、今後のカンファレンスの在り方の大きな参考になりました。参加者からは「直接患者さんから話を聞くことができ、全体像がよりリアルになり、論議が深まった」、「患者さんの希望と治療方針、どちらも踏まえ、患者さんが置き去りにならないよう今後の方針を決定することが重要」などの感想が出されました。今回のワークショップでの論議を足がかりに、今後も学習教材の作成を進めていきます。

※SDH(Social Determinants of Health)とは、人々の健康状態を規定する経済的、社会的条件のこと。貧困や生活環境が疾病や健康に作用する。

巻末特集(2)

李先生の研修

今年の5月8日～30日にかけて、カナダの研修医の李愛琳（リー・アイリン）先生が福岡医療団で研修をされました。李先生は、トロント大学の家庭医学研修の2年目研修医です（※2019年5月時点）。2年間の研修のうち1カ月間について、日本のSDHに関連した研修を希望され、カナダ・トロント大学のギャリー先生が舟越理事長に相談したことがきっかけで研修が実現しました。

李先生は「将来、家庭医として社会的弱者と関わる医療をしたい」、「患者の社会的状況を理解した上で、一人ひとりに合った治療を提供できるような医師になりたい」とのことでした。この目標に向けて、千代診療所の外来・訪問診療を中心に、大楠診療所での研修、たたらリハビリテーション病院での緩和ケア研修などを実施。医療ソーシャルワーカーやケアマネージャーに同行し、日本の医療や介護について学んでいただきました。また、山本院長や舟越理事長より、日本の医療・福岡の医療の歴史や現状、民医連の無差別平等の医療活動などのレクチャーを行い、さらに友の会の班活動や、冷泉公園でのホームレス医療支援活動にも参加していただきました。

李先生は小学生まで札幌に住んでおり、日本語でのコミュニケーションがとれるため、研修期間中を通して、多くの患者さんや職員、医学生と交流。外来での診療場面から日本の医療・介護の制度や状況など、さまざまなことを学び、吸収され、「日本とカナダでは患者さんの雰囲気が違う」、「日本の医師の患者さんへの気配りが良かった」、「日本の介護サービスはカナダよりも充実している」、「SDHに関して病院全体として介入している」といった感想が聞かれました。

また、李先生から医師向けに「カナダの医療と研修について」の発表を行ってもらい、多くの医師がカナダの医療について学ぶ機会になりました。李先生によると、カナダの医師の約半分は家庭医として地域で働いており、家庭医のシステムが患者さんの医療へのかかりやすさを保障しているそうです。逆に、専門医との時間的・心理的距離感が大きくなっていることも分かりました。SDHに介入することの必要性は、カナダの医師の多くがしっかり意識しているとのことで、日本との違いを感じました。

最終日のまとめでは、李先生より「千鳥橋病院では、カナダのどこの病院よりも職種間のチームワークがよくとれている」、「研修医のサポートがしっかりされており、家庭医、内科医の育成にはとても良い環境だ」、「千鳥橋病院での研修は素晴らしい経験だった」と感想をいただきました。

海外からの研修医の受け入れは当院初めての取り組みで、不安も大きかったのですが、李先生は研修目的を達成。受け入れた私たちもたくさんの学びがあった1カ月でした。

千鳥橋病院の理念

●無差別・平等の医療
「患者の人権」を尊重した医療をすすめます
●安全・安心・信頼の医療
患者さまや地域の方々とともに医療の質の向上につとめます
●安心して住み続けられるまちづくり
保健・医療・福祉のネットワークを広げます
●ヘルスプロモーション活動の推進
HPH として、患者、地域、職員の健康づくりをすすめます

千鳥橋病院の医師研修理念

「各科に共通の確かな基本的力量と豊かな人権意識、健康増進への意識を備えた、地域医療を志向する医師」を「それぞれの研修医を主体者にして」養成する。当院は、厚生労働省より「基幹型臨床研修病院」に指定されています。

千鳥橋病院　看護の理念

「患者の権利」を尊重し、安全で安心できる、差別のない看護を提供します。

ちどりクエスチョン　クイズに答えて図書カードをGET！

患者さんの健康は、遺伝的な要因だけでなく、社会的な条件に大きく左右されることがわかっています。このことを「健康の社会的決定要因」といいますが、これを英語で表したのは次のうちどれでしょう？

①CKD　②SDH　③DHC　④DSM

正解者の中から抽選で５名様に
500円の図書カードをプレゼント！

締め切りは 2019 年
10月31日（木）

【応募方法】
官製ハガキか FAX もしくは E メールに、クイズの答え・住所・氏名・電話番号・本誌の感想、ご意見、日常の身の回りの出来事などを書いてお寄せください。

ハガキ・・・・　〒812-8633
「ちどり通信クイズ」係
FAX・・・・　092-633-3311
Eメール・・・　soumu@fid.jp

※当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
前回・春号の答えは②「ピロリ菌の検査・治療」でした。

千代診療所　診療体制のご案内

■ 都合により休診となることがあります。お電話で確認後ご来院ください。
■ 紹介状をお持ちの方は、まず電話にてご連絡をお願いいたします。

［2019 年５月～］

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日
診療科目	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科（一般内科）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	10:00迄	◇ 第2・第4	10:00迄	―	10:00迄	―	10:00迄	―	10:00迄	―	10:00迄
整形外科	○	―	○	―	○	―	○	―	○	―	―
脳神経外科	○	―	―	―	―	―	○	―	○	―	―
小児科	○	○	○	―	○	○	○	―	○	―	―
産婦人科	11:00迄	◇	11:00迄	◇	11:00迄	―	11:00迄	◇	11:00迄	◇	◇ 10:30迄
乳腺外科	―	◇	―	―	◇	―	―	―	◇	―	◇ 第3
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	11:00迄	―	10:30迄 (変更あり)	―	11:00迄	―	10:30迄 (変更あり)	―	11:00迄	―	第2・第4 11:00迄
皮膚科	○	―	10:30迄	―	―	―	○ 第4 11:00迄	―	10:30迄	―	―
眼科	○	15:00迄	○	―	○	15:00迄	○	―	○	15:00迄	第1・第3 ○
泌尿器科	―	―	―	○	―	―	―	○	―	―	―
アルコール外来	―	―	第2 ◇	―	―	―	―	第2・第4 ◇	―	―	―
その他（予約制）	禁煙外来　月・水の午後 労働衛生外来　木　の午後										

受付時間
○［午前］ 8：00～11：30〈診療開始〉 9：00～　脳神経外科は 9：30～
［午後］12：30～16：00〈診療開始〉13：30～　内科・小児科は 14：00～
◇ 予約制（前日までに予約をとりご来院ください）

土曜は週および診療科によって受付時間が変わりますので、お問合せください。
ホームページでもご確認できます
http://chiyoshin.com

千鳥橋病院・千代診療所は
敷地内全面禁煙になっております。

千代診療所（代表）092-651-0726
千鳥橋病院（代表）092-641-2761
千鳥橋病院は 24 時間 365 日対応の救急指定病院です。
救急車の受け入れ、急患の対応を行っています。

ちどり通信 Vol.109 発行日／2019年9月1日 発行元／千鳥橋病院広報委員会
〒812-0044 福岡市博多区千代5-18-1 TEL.092-641-2761 FAX.092-633-3311 http://www.chidoribashi-hp.or.jp/